

「浙江大学スプリングスクール参加報告書」

京都大学法学部2年 守本 萌

このプログラムでは、現地大学生との交流の機会が豊富にあり、今の中国人の若者と考えを交換できたことはとても有意義であった。特に浙江大学は中国でも5本の指に入る大学であり、将来中国を引っ張っていくであろう彼らから刺激を受けた。中国は就職難であり、たとえ高学歴でも自分の理想の仕事に就くことは難しいそうだ。日本も就職難といわれるが、中国とは人口規模が違う。毎年膨大な数の学生が卒業するのだ。私が話を聞いた彼女は、長期休暇毎にNGOや民間のインターンに行き、自分の就職への足掛かりを着々と積んでいた。私が褒めると、特別なことではないと言われてしまった。自分の将来への考えの甘さ、努力不足を痛感した。

また、中国人の若者の政治に対する考え方も聞いたのはとてもよかった。その話の間は終始小さな声で話し、「大学の外では言えない」と言っており、中国の規制の厳しさを感じた。中国のネット環境はとても悪く、多くの制限がかかっていた。現地の学生もVPNを購入し、規制を潜り抜けている。そういった状況に中国人学生は不満を持っていた。環境面なども含め、若者たちが中国の現状に問題意識をもっており、変えていこうとしていることが伝わってきた。

留学に行く前は、中国に対して反日やマナーの悪いというイメージがあり、少し心配をしていた。しかし、現地に行くと現地の人はとても優しく、マナーの悪さもあまり気にならなかった。トイレなどで、私が並んでいても、先に入られ少し驚いたが、私以外の中国の人たちは取り合いになるわけでもなくスムーズにトイレに入っていくため、次第に日本とは並び方の考えが異なるのかと感じた。ただ日本のマナーとは異なるために、マナーが悪く見えてしまうという部分も少なからずあると思う。地域差もあるかもしれないが、私が接した中国人から反日の感情は全く感じなかった。私が拙い中国語で話すと、笑顔で褒めてくれたり、ゆっくり話してくれたりした。メディアの報道の仕方のために、多くの日本人が誤って中国をとらえていると思う。中国人は日本人を暖かく歓迎してくれた。日本人の中国人への態度はどうだろうか？マナーが悪いと考え、中国人観光客を疎む風潮もある。文化が違えば、マナーも違う。反日だと叫ばれているが、中国からしたら日本は反中なのかもしれない。私は将来メディア関係の仕事に就きたいと考えている。メディアの報道の仕方ですべて日本人の考えを間違った方向に固定してしまうこともある。この留学の経験からメディアの在り方、自分はこういった風に情報を発信していくべきかを考えさせられた。

在浙江大学我学中文两个星期了。两个星期很短、可是我学得多。我用中文和英语学中文了。所以我觉得浙江大学的课比京都大学的课难。可是课很开心了。我是跟留学生学的中文。国家不一样。不过喜欢中国的心怀一样。跟他们一起学中文的经历很好了。